

## M15a 陽光による太陽観測と Coronal Mass Ejections

巨 慎一 (通総研)、H. Hudson (SPRC)、小島 正宜 (名大 STE 研)、渡辺 堯 (茨城大)

Coronal mass ejections (CMEs) は、1970 年代初期に発見され、最近では、非回帰性の惑星間空間擾乱の主な原因と考えられるようになってきている。磁場に蓄えられたエネルギーが他のエネルギーに変換されるプロセスであるという点ではフレアと CME は類似したプロセスである。しかしながら、フレアが観測されない場合でも CME が観測されることや CME の空間的サイズなどを考慮すると両者は異なる現象であると考えられる。

大きな惑星間空間擾乱に対応して強いフレアが観測されることが多いのも事実であり、フレアと CME の関係については依然としてはっきりしない点が残されている。Harrison (1995) によって、両者の関係に関する統計的な解析が行なわれているが、個々のイベントに戻って解析してみることも重要である。

本発表では、1996 年 7 月 9 日の X2/1B フレアと西のリムで観測された CME、1996 年 9 月 25 日のフィラメント消失に伴う現象、1996 年 10 月 5 日に西のリムで観測された CME などのいくつかのイベントを例に引きながら、CME の下層コロナ中でのカウンターパートについて討論を行なう。